

平成22年度未来をひらく学校づくり支援事業（提案型）

事業実施報告書・事業経過報告書

<p>学校・園名</p>	<p>北九州市立小倉幼稚園</p>
<p>校長・園長名</p>	<p>古賀 和子</p>
<p>住 所</p>	<p>北九州市小倉北区堺町二丁目4番8号</p>
<p>電話番号</p>	<p>093-521-1765</p>
<p>事業概要</p>	<p>この町で創立121年目に小倉幼稚園に在籍する小倉っ子が、幼稚園を飛び出して、小倉城や勝山公園大芝生広場を第二の運動場にした年間体力アップ大作戦にチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 作戦1：『小倉城でイチジョウマン体操』（佐藤弘道）講師招聘費が認められなかったため、以下のように変更した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 約広さ一畳のヨガマットを幼児一人1枚用意した。ヨガマットの多様な活用によって、「跳ぶ・走る・またぐ・飛び越す・すばやく身をかわす・転がる等、幼児が『楽しい』と感じ、『またしたい!』と、意欲の継続が見られる取組となった。 ・ また、親子ほっとタイムでもヨガマットを使用することで、家庭での『家スポ』=『布団の上でチョットやってみようか』のきっかけづくりに なった。 ◆ 作戦2：『小倉っ子 芝生大広場サッカー道場』ボールと遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・ 本園の保護者にギラウァンツ北九州のメンバーがおられた。保護者の協力を得て、広い場所で思い切りボールと遊び、楽しみながら幼児の基礎体力アップを目指した。当日雨が心配されたので、小学校の体育館で実施した。
<p>事業開始前の学校の現状・課題等</p>	<p>○ 本園の運動場は、来園者が「ところで、運動場はどこですか」と尋ねるほど、とても狭い。園庭では特に「走る」「ボールを蹴る」等の「思い切り」の運動遊びは危険を伴い困難である。さらに、町中で育った本園の幼児たちは、「すぐに転ぶ」「友達とぶつかる」等の様子が見られ、敏捷性や防御の判断、行動に課題がある様子が見られた。</p> <p>課題解決のために、「親子ほっとタイム」という活動を行っているが、さらなる幼児の基礎体力づくりに、園と家庭が一体となって取り組む必要がある。そのために新たな教材の投入や身近にある公園の活用を行う。</p>
<p>事業目的</p>	<p>○ 健やかな心と体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『からだ元気、こころ元気』の幼児の育成 ・ 家庭と連携『家スポ』の定着 ・ 体づくりは学力の底力づくり ・ まず、『楽しい』体験を。そこから始まる継続の効果

事業実施による
効果・改善点等

1 効果

<作戦1より> 新しい教材（ヨガマット）の投入による運動量の増加

（這う、歩く、走る、跳ぶ等による体力アップにつながった。）

- 本園の幼児の課題である『すぐ転ぶ』『つまづく』『身をかかわせない』等に対してヨガマットの遊びを通して体を柔軟に動かすことになれてきた。
 - <マットを広げて…体の曲げ伸ばしを動き>
 - <マットを丸めて柱にして…とっさに身をかかわす動き>
 - <マットを丸めて棒にして…跳ぶ、飛び越すなど判断して行う動き>



<作戦2より> ギラヴァンツ交流によるボール遊びへの意欲

（運動神経を伸ばす効果があった。）

- 「楽しく」運動することを重視し、子どもが「かっこいい」「すごい」と思っているプロのサッカー選手との交流を計画、実施した。気持ちの高まり（やる気）を喚起するために、ゼッケンとサッカーボールを準備した。子どもたちは大喜びで、「選手になりきって」活動した。「なりきる」ことで、運動量も多くなった。また、ボールの特性から、自分の意思に反して転がるので、何度もチャレンジしたり、全身で走る、しゃがむ、蹴る、腕を伸ばす他、多様な運動に取り組んだりした。
- 交流の後、運動会や親子ほっとタイムでボールを活用し、親子で楽しむきっかけにもなった。



2 改善点

- ◆ 巧緻性、敏捷性、集中力などの高まる運動をさらに充実させていく。
- ◆ とっさに身を交わす動きができるようになる運動を重点的にする。（出合いがしらにぶつかりそうになることが多い。）
- ◆ キーワードは、『楽しく』である。『楽しくなると持続する』『楽しくなると一つ高い目標に向かう』等の効果があるので、子どもも大人も『楽しく』運動できる機会と内容をさらに計画・実施していく。